

◆西宮市は、住民基本台帳カードを利用した証明書等のコンビニ交付を開始したことにより、市外から利用でき、住民票や課税証明書は休日夜間も発行できるため、導入後は利用者がふえ、26年度は約3万人が利用している。また、「男女共同参画センター・ウェーブ」は、女性の問題解決の活動拠点として設置され、男女共同参画社会の実現のための図書や雑誌、行政資料、活動団体が発行する資料等がある。女性のための相談室では、女性の悩みを個人の問題にとらえるだけでなく女性が置かれている



西宮市「男女共同参画センター・ウェーブ」

社会的な状況を視野に入れ、相談に乗っている。

◆尼崎市は、市民・地元産業界・行政が一丸となって環境と経済の両立を目指す提案をし、平成25年に「環境モデル都市」に選定された。公共施設での太陽光パネルの設置や屋根貸し事業、自転車走行空間の整備、保育園の壁面緑化等に取り組んでいる。平成27年には、走行中に排出ガスやCO₂を排出しない燃料電池自動車を公用車に率先して導入している。市民コミュニティが強く、環境活動団体が自主的に講座やイベントを開催し、環境教育、啓発活動を行っている。

【視察地・視察項目】

- ◎西宮市（兵庫県）
証明書等のコンビニ交付
男女共同参画センター
- ◎尼崎市（兵庫県）
環境モデル都市

市民環境委員会

● 5月13・14日 ●

◆西尾市は、少子高齢化、公共施設の老朽化、合併に伴う公共施設の重複など課題への対策を考え、公共施設再配置を進めている。全国初の取り組みとして、受託する事業者に対し、施設の建設ではなく、施設の運営を中心に求めるPFI方式を導入している。これまで施設所管課がそれぞれ行っていた維持管理を事業者に一括発注することで、コスト削減を図っている。委託期間は30年間だが、地元の経済を循環させることを目的として、受託する事業者は愛知県内に本店のある事業所としているのが特徴である。



西尾市公共施設再配置基本計画

◆松阪市は、就業構造の変化や地域連帯意識の希薄化などにより、毎年100名程度の消防団員の入退団があり新規団員の確保が課題となっている。平成17年の合併当時、消防団員に101名の欠員が発生したが、松阪市政の所信に消防団の機構見直しと体制強化を掲げ、市議会議員、自治会長、消防団OB、消防職員OBへの協力

【視察地・視察項目】

- ◎西尾市（愛知県）
公共施設の再配置
- ◎松阪市（三重県）
消防団活動の充実・強化

総務委員会

● 5月12・13日 ●

委員会視察

建設経済委員会

● 5月13・14日 ●

【視察地・視察項目】

- ◎刈谷市（愛知県）
都市交通戦略
- ◎岡崎市（愛知県）
ビジネスサポートセンター

◆刈谷市では都市交通戦略を策定し、交通渋滞の解消、交通需要への対応と環境負荷の軽減、まちづくりと連携した交通政策の展開、高齢化の進展に対応した都市交通体系の構築など、交通に関する諸問題の解決に向けて取り組んでいる。また、これらの問題を平成42年までに解決することを目指しており、その実現に向け、市民、企業、地域団体、市民活動団体、交通事業者及び行政がそれぞれの立場・役割を明確にし、連携を深めながら交通とまちづくりを一体的に捉えて取り組んでいる。

◆岡崎市では、平成25年10月にビジネスサポートセンター「Oka-Biz」を開設し、事業者の相談機会の充実と支援機能の強化を図っている。「Oka-Biz」は売上アップをメインテーマとした公的な相談所であり、ビジネスコーディネーター（相談員）が経営者自身も気づかない真のセールスポイントを発見し、それを生かす方法を提案することで相談者の行動を継続的に支援している。事業者の相談件数は年間1,404件に上り、相談者の7割以上がリピーターになっている。開設して間もないが、多くの実績を上げている。



岡崎ビジネスサポートセンター

教育民生委員会

● 5月18・19日 ●

◆名張市は小児救急医療センターを平成26年1月20日に開設。センターという「ハコモノ」をイメージしがちだが、市立病院の小児の外来診療室を使用して小児の救急患者を24時間365日受け入れるというシステムである。運営体制は小児科医師、看護師、医療事務職員各1名で、検査・放射線・薬剤部門は必要があれば呼び出しを行うオンコール体制としている。対象患者は入院治療等が必要な重症度の高い小児救急患者で、従来は病院に行って診察を受けなければならない状況だったが、24時間365日電話での相談も可能とな

【視察地・視察項目】

- ◎名張市（三重県）
小児二次救急
- ◎桑名市（三重県）
PFIを活用した図書館事業

っているため、コンビニ受診の削減にもつながっている。

◆桑名市立中央図書館は、平成11年の検討開始から5年の歳月をかけて、PFI手法で運営する日本初の図書館として平成16年10月1日に開館し、昨年度10周年を迎えた。基本構想は「いつでも、どこでも、誰でも」利用できる図書館。蔵書数は約33万冊。年間入館者数は約60万人。貸出冊数は年間約70万冊。開館時間は午前9時～午後9時で年間300日以上開館を目標とし、18年度以降300日以上開館している。



桑名市立中央図書館